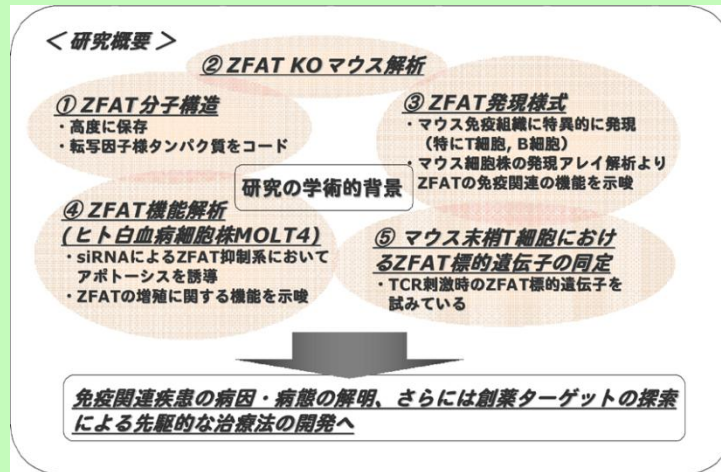


【分野】 バイオ

【キーワード】 ZFAT、自己免疫疾患、アポトーシス

## 【研究シーズの概要】

当教室は自己免疫性甲状腺疾患の疾患ゲノム解析により、新規免疫関連分子としてZFATを同定し解析を進めてきた。ZFATは転写制御分子をコードし、魚類よりヒトに至るまで高度に保存された遺伝子であり、末梢血のT細胞、B細胞を含む免疫組織に特異的に発現し、機能的には免疫応答、アポトーシスに深く関与する分子であることを報告してきた。現在は、分子・細胞レベルでの解析に加えて、遺伝子欠損マウスを含む個体レベルでの解析も進行させており、ZFATが免疫応答のみならず生命システムにおける重要な転写制御分子として機能することが示唆されつつあり、更なる詳細な分子機構の解析を行っている。



## 【特徴、効果、独創的な点】

- 疾患ゲノム解析により新規免疫関連分子ZFATを同定し、ZFATがアポトーシスに深く関与する分子であることを世界に先駆けて明らかにした。
- すでにZFAT遺伝子改変マウスを樹立しており、表現型解析および発現アレイ等の網羅的解析を進め、疾患関連分子のネットワークの解明を試みている。

## 【利用、用途】

ZFATの機能解明と機能制御法の開発は免疫関連疾患のみならず、その他の疾患群に対しても広く適用できることが期待される。

## 【知的財産等情報】

特許：PCT/JP2008/66155